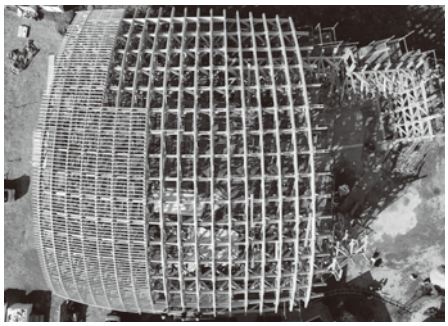
KUMAMOTO ARTPOLIS NEWS

Vol.48
2023.3



CONTENTS

公募型プロポーザル
芦北町湯浦地区地域優良賃貸住宅

新規プロジェクト
高橋酒造田野蒸留所・地域交流施設

モク活シンポジウム2022

On going
南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発
熊本地震震災ミュージアム こども建築塾
エバーフィールド木材加工場
令和２年7月豪雨「みんなの家」

第26回くまもとアートポリス推進賞／KASEIプロジェクト
熊本地震「みんなの家」利活用プロジェクト
TOPIC／Instagramフォトコンテスト

2022. 4. 20 wed

芦北町湯浦地区地域優良賃貸住宅整備設計公募型プロポーザル 片山+龍口+太宏共同企業体を設計者に選定

審査員長
伊東　豊雄（建築家、くまもとアートポリス（KAP）コミッショナー）

審 査 員
竹﨑　一成（芦北町長）
藤崎　正司（芦北町副町長）
鎌倉　博之（芦北町建設課長）
桂　　英昭（建築家、KAPアドバイザー）
末廣　香織（建築家、KAPアドバイザー、九州大学教授）
曽我部 昌史（建築家、KAPアドバイザー、神奈川大学教授）

次世代に繋ぐオンリーワンの公営住宅

芦北町では、子育て世帯が安心して生活できる環境を整えるための住宅の建設を計画している。一方で、令和2年7月豪雨により河川の氾濫や土砂崩れが各地で発生し、今もなお多くの災害の爪痕が残されている。このような状況の中で、単なる復旧・復興にとどまらず被災前よりも輝く芦北町をつくるため、「創造的復興」に取り組むこととした。被災された町民の方や、移住希望者が、安全・安心を実感できる住環境を整備し、次世代に繋いでいく施設としての地域優良賃貸住宅を整備するため、くまもとアートポリスに参加し公募型プロポーザルを実施した。

近年のアートポリス公募型プロポーザルでは過去最多を更新する48件の応募作品が集まり、二次審査に進む5者を選定。令和5年4月20日に芦北町地域活性化センターにおいて公開審査（来場者70名限定）を開催した。5者の提案に対し、審査員と熱い議論が交わされた。伊東審査員長は講評として「最優秀者の提案は、豪雨災害からの復旧・復興を進めながらオンリーワンを目指す町の提案に沿いながら、ゼロカーボン社会にふさわしい内容でもあった」と述べた。

プロポーザルの概要

2021年12月1日	応募要項発表
2022年2月28日	応募締切
2022年3月17日	一次審査（非公開）
2022年4月20日	二次審査（公開）

事業概要

建設地／葦北郡芦北町大字湯浦91番地1外
事業主体／芦北町
計画条件／木造3階建て以下、15戸

受賞者 Comment

最優秀賞　片山+龍口+太宏共同企業体

芦北町の自然と共生する安全・安心の「新しいあたりまえ」をテーマとしました。路地を挟むお隣りとのくらしを提案する「向こう三軒両隣」、くらしと災害時に分かりやすい「近接する駐車場」などの住環境をはじめ、在宅避難可能な住宅計画や災害を逃す「信玄堤的建物配置と造成」など、防災に対応しながらそれを感じさせない設計を目指しました。共同企業体のチームワークを深めながら、町の皆さんが集えるような場所を実現させていきます。

前列左から、太宏設計 日高由美子氏、片山和俊氏、太宏設計 山口勇一氏。後列左から、太宏設計 諸富裕二氏、同社 福田達也氏、龍口元哉氏

片山+龍口+太宏共同企業体
"広いハラッパ、緑の中庭"を中心に、2階建てフラット型・メゾネット型を両側に配している。
ストーブや足湯を設け、地域コミュニケーションを施す工夫も。

有限会社ワークステーション
中心の交流広場は、一戸建て感覚の長屋がゆるやかに囲む。
避難場所を2.5階に備えた住居は、設置性を重視したテラスハウス形式。

COA

株式会社コンテンポラリーズ

株式会社横井創馬建築設計事務所

Check!
プロジェクトの詳細は
こちらをチェック→→

2023. 1. 26 thu

高橋酒造田野蒸留所・地域交流施設を発表

山里の廃校を大規模リノベーション。地域交流施設も兼ねた蒸留所を新設

球磨焼酎で全国的に知られる高橋酒造株式会社は、鹿児島県伊佐市との県境にある人吉市田野町に蒸留所・地域交流施設を新設。ウイスキーの製造販売を新事業として展開することを発表した。

施設はアートポリスに参加し、設計は平瀬有人氏・平瀬祐子氏が担当する。過疎化により2014年に廃校となった赤い屋根が印象的な田野小学校の木造校舎と体育館をリノベーションし、体育館は蒸留施設、校舎は貯蔵庫と地域の交流施設として活用。

酒造りを見学できる回廊やウイスキーの試飲コーナーも設置される。

まずは、体育館を蒸留所への改修を2023年6月に着工予定。その後、二期工事として校舎のリノベーションに着手する。将来的にキャンプやトレッキングができるアウトドア拠点として整備する構想もある。高橋酒造の高橋光宏代表取締役は「人が集まり、心が安らぐ場所となれば。地域住民と醸造を盛り上げ、観光スポットとしての役割も担いたい」と展望を語った。

事業概要

建設地／人吉市田野町3316-4
事業主体／高橋酒造株式会社
改修規模／約1,300㎡（増築約400㎡）
1階：約850㎡、2階約450㎡
事業内容／旧田野小学校校舎等を蒸留所、地域交流施設に改修

設計者 Comment

平瀬有人・平瀬祐子／yHa architects

廃校となった小学校を改修するだけでなく蒸留施設を作るプロジェクトなので、蒸留機器の配置や衛生面など考慮を要する点が多々ありました。田野小学校は地域で長年愛されてきたランドマーク的存在です。印象的な赤い屋根など人々の記憶を継承する点は残しつつ、設計と増築によって新しい価値を生み出すことで、新旧一体化した建築物を目指しています。

高橋酒造 Comment

高橋酒造株式会社 常務取締役 高橋良輔氏

新しい蒸留所は、田野町の美しい景観も楽しめる建築物となりそうです。ここから世界で戦えるウイスキーを生み出せるよう、真摯に醸造に取り組みます。また、地域住民との融和を図り、人吉の観光資源の一つとなることも目指しています。

Check!
プロジェクトの詳細は
こちらをチェック→→

2022. 10. 29 sat

モク活
シンポジウム2022

開催場所　熊本県庁地下大会議室

コメンテーター
小川　次郎（アトリエ·シムサ）
原田　実生（原田木材）
原田　展幸（ライフジャム）
村木　勇一（幸の国木材工業）
山田　憲明（山田憲明構造設計事務所）
桂　　英昭（KAPアドバイザー）
末廣　香織（KAPアドバイザー）

主催　熊本県（林業振興課、建築課）

これからの木材活用の可

中層建築物における木材利用推進のための建築基準法改正や、民間建築物も含めた木材利用促進を図るための新法「都市（まち）の木造化推進法」が施行されるなど、国を挙げて木造建築物の促進を図っており、熊本県も「林業県」として早くから木材需要拡大の施策を展開。

また、くまもとアートポリスも、当初から木造プロジェクトを多く展開しており、現在も県や市町村、民間の施設で木造建築物のプロジェクトが進んでいる。

このような状況を踏まえ、くまもとアートポリスでは、農林水産部と連携し、県内の建築関係者、林業関係者が一緒になって、県産材の利活用促進のため、木造建築物の魅力を発信する取組みを「モク活」と位置づけ、2022年10月にシンポジウムを開催し、建築関係者、林業関係者、学生など約150名の参加があった。

最初に、アートポリス参加プロジェクト「エバーフィールド木材加工場」の設計者である、小川次郎氏と山田憲明氏から、木造建築物の設計事例の紹介。鳥の巣状の大スパントラスが特徴の「熊本県総合防災航空センター」（菊陽町）とレシプロカル（相持ち）構造による「エバーフィールド木材加工場」を例に挙げ、木材同士が重なり合うことで成立する構造の仕組みの解説があった。また、小国杉をふんだんに使った「南小国町役場」（小国町）や水俣産の杉とヒノキを使った「わかたけ保育園」（水俣市）といった県内の木造建築物のほか、大分産の杉の無垢材で大スパンを実現した「大分県立武道スポーツセンター」（大分市）など県外の建築物での木材利用例も紹介。会場では参加者が興味深そうにメモを取る姿が見られた。

その後、「木材利用の可能性や熊本の木材供給に求めるもの」をテーマに、若手建築家10名によるプレゼンテーションを実施。

プレゼンテーションの実施に当たり、より活発な意見交換ができるよう、シンポジウム開催の約1か月前に、説明資料を県ホームページやフェイスブック等で公開し、事前に意見を募集する形を取った。（プレゼンターのプレゼン資料は、県ホームページに掲載）

後半のパネルディスカッションでは、先ほどプレゼンした、小川氏と山田氏や若手建築家10名の他、林業関係者である原田木材の原田実生氏、幸の国木材工業の村木勇一氏と、KAPアドバイザー・桂氏・末廣氏も

プレゼンター

大谷　一翔
大谷一翔建築設計事務所
木造が採用されなかった小·中規模建築事例

上野 瑞樹
セルアーキテクト

佐藤 俊輔
バオプラーン熊本

県産木材利用と中大規模木造建築物の推進活動（上野、佐藤、真道）

真道 吉広
ジメント

児玉　敏郁
SOWER
熊本市の幼稚園への木のジャングルジム設置例

原田　実生

村木　勇一

桂　英昭

末廣　香織

小川　次郎

能性と木材供給について

参加し、ライフジャムの原田展幸氏がコーディネーターとなり、木材の利活用事例の紹介や県産材を利活用するための課題など、熱い議論が交わされた。
「幼い頃に木に触れる機会を作ることで、木造の良さを感じられる心を育む」「脱炭素社会を目指すヨーロッパでは、見えない部分にも木を使って使用量を増やすなど意識が高い」といった実体験を基にした意見のほか、「大切なのは林業と建設業をつなぐネットワーク作り」「RCや鉄骨の代わりとしてではなく、木造だからこその良さを考えるべき」などの見解もあった。

また、大規模木造建築物では、多くの木材が必要で、特殊な木加工が必要な場合もあり、一般に流通している県産材を利活用するためには、設計段階で木材の生産・加工から、建物の設計・施工までの連携が必要であることも確認した。

最後に、KAPアドバイザー・末廣氏から「世界的な動向にも目を向けながら木造建築物について考え続けていきたい」、桂氏からは「皆で語り合えたこの機会に感謝」との言葉があり、閉会へ。コーディネーター・原田展幸氏からの「答えの出ない話もあったが、さまざまな意見を交換できるこのような場は大変有意義。今後も「モク活」を継続していこう」との意見で場が締めくくられた。

今後も建築関係者と林業関係者が連携し、県産材を使った木造建築物を題材に、シンポジウムや現場見学会を開催するなど、アートポリスの知名度を活かしながら、様々な建物で県産材が利用されるよう、木造建築物の魅力を県民に広く発信して行く。

参加者 Comment

一般社団法人
熊本県木材協会連合会
水間 信介さん
建築士の皆さんの色々な視点からの話を伺えて有意義な時間でした。「モク活」の機会が増え、県産木材の利活用が進むよう私自身も取り組んでいきたいと考えております。

崇城大学工学部建築学科4年
蓑田 久真さん
卒業研究で間伐材の利用について調べているので、モク活に興味があります。今回のシンポジウムでBP材を初めて知り、もっと詳しく知りたくなりました。

Check!
シンポジウムの詳細は
こちらをチェック→→

白橋　祐二
建築食堂
地場産材のみを用いた
公共建築物の可能性

田中　章友
産紘設計
県産材の木造建築物・
芦北町総合コミュニティセンター

林田　直樹
林田直樹建築デザイン事務所
工法とコストの見える化と
LCAから考える木造建築

堀川　恵巳子
堀川建築・造形計画
地域の木材を生かした
BP材の発展と展望

三舛　正順
南小国町集落支援員
小国町内で木工事を完結させた
3棟のバンガロー

原田　展幸

山田　憲明

On going

南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発

とにかく広いプラットホーム

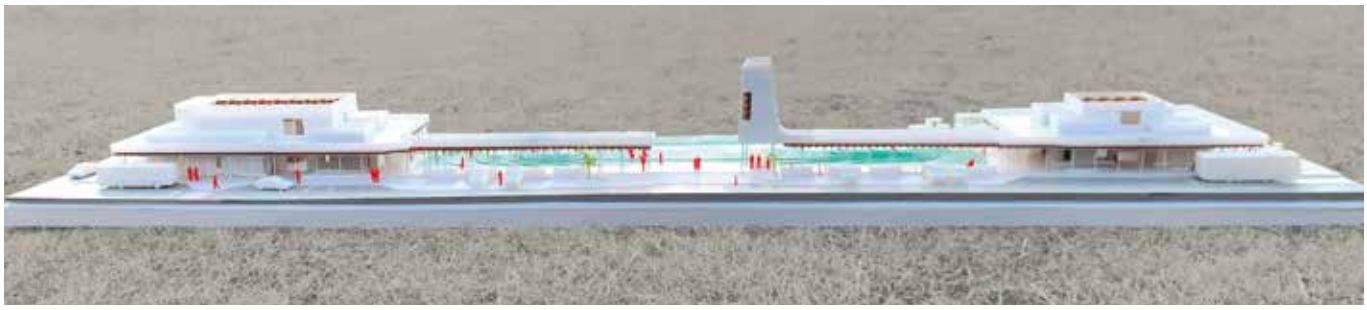
南阿蘇鉄道の全線復旧を見据え、高森駅の建て替えと駅周辺の再開発が高森町のアートポリスのプロジェクトだ。2023年の春に新駅舎が完成し、2024年の春には回廊、交流施設、とにかく広いプラットホームが完成予定。

「西を向いている既存駅舎から夕日やなだらかな山々が見える素晴らしい風景を見て、阿蘇のカルデラの中にある世界の中心だ」と設計者の太田浩史氏が感じたことから始まったプロジェクト。通常の駅舎では、まちからは駅舎やロータリーが見えるが、新しい高森駅は、全長120mの「とにかく広いプラットホーム」を中心に据え、列車とまちをつなげるコンセプト。

建物の庇や回廊には「修羅組（三次元相持ちの木構造）」を採用し、地域交通の乗換え拠点として利便性も高めるロータリーが2つ計画されている。

事業概要

事業主体／高森町
設計者／太田浩史（株式会社ヌーブ）
延べ面積／駅舎 約500㎡
防災交流施設 約300㎡
構造・階数／木造・地上2階



2023. 2. 11 sat

高森の駅とまちシンポジウム

駅と広場とまちづくり

ゲスト
山下　裕子（広場ニスト）
山根　俊輔（建築家）
面木　　健（オモケンパークディレクター）※ムービープレゼン

司会進行
太田　浩史（建築家／高森駅建築設計担当）
林　英理子（ランドスケープデザイナー／高森駅外構設計担当）

左から、高森駅設計者の太田氏、林氏

左から、ゲストの山根氏、山下氏

広場は、ひとつのメディア。ここにしかない魅力を発信できる広場に

2024年には新駅舎からつながる回廊・広場・交流施設がグランドオープンすることで、高森駅周辺が人と人をつなぐ広場として新たなスタートをきる。

駅と広場のまちづくりへの活用について、専門家とともに考えるシンポジウムを高森町が開催した。富山グランドプラザ運営の経験をもとに、全国の広場づくり活動をサポートする山下氏は「広場には役割が定義されてないから核となる活動を広場で始めることがポイント」。延岡駅周辺のまちづくりに取り組む山根氏は「居場所をつくり、確実に継続できることが重要」と、自らの経験を例に出し、広場運営についてのヒントを伝えた。熊本市内の街中にオモケンパークを運営する面木氏は、シビックプライドを切り口に場づくりのコンセプトを動画でプレゼン。シンポジウムの参加者からは、多くの質問が投げかけられ、議論が交わされた。高森駅の外構設計を担当者する林氏は「目的のある人も、偶然居合わせた人も集えることが広場の良さ」と語り、太田氏は「2023年の全線開通、2024年のグランドオープンはゴールではなくスタート」と締めくくった。

参加者 Comment

ボーシェン美子さん

地域おこし協力隊として、2023年に高森に移住しました。今回のシンポジウムで「広場が文化をつくる」というメッセージが印象的でした。交流があることで、さまざまな相乗効果が生まれる場をイメージできました。完成をとても期待しています。

Check!
プロジェクトの詳細はこちらをチェック→→

On going

熊本地震震災ミュージアム 体験・展示施設

熊本地震の記憶を未来へ遺し、学ぶ

熊本地震の記憶を遺し、学ぶ回廊型のフィールドミュージアムの中核拠点施設として、南阿蘇村で建設中の熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設は、2023年夏の開館を目指している。

設計者、施工者が集めた野焼きの灰や阿蘇黄土を配合した数種類の釉薬をかけて焼き上げたタイル、山鹿で採取した石を使ったコンクリートを洗い出した仕上げは試作で風合いの確認をして進められた。特徴のあるディテールは、「熊本地震を記憶していくミュージアムなので、色々な方に関わっていただき、思いをつなぎかたちにしたい」との設計者の思いがカタチとなる。

釉薬の種類で色の異なるタイル

洗い出し仕上げの外壁

事業概要

事業主体／熊本県
設計者／大西麻貴＋百田有希＋産紘設計
延べ面積／約1,300㎡
構造・階数／木造・平屋

設計者 Comment

大西麻貴＋百田有希／o+h

建設場所の雄大な自然に感動したことからスタートした今回のプロジェクト。完成後は、地震という自然災害の驚異と、自然の豊かな恵みと、人と自然との関係を体感してほしいと思います。建物は軒下を大きく取り、室内と外の空気を交互に感じられる仕掛け。阿蘇の自然の有り様を風景と展示物を交互に体感し、学べる場になるよう期待しています。

施工者 Comment

株式会社橋本建設　橋本 幸典

熊本地震震災ミュージアムは、意匠性の高い建物で、これまでの建設の固定概念が通用しないものでした。屋根瓦一枚からすべてオリジナル。建設の材料のサンプルづくりからはじまり、決定するまで試行錯誤しました。大変だったものの、私にとってこれが「代表作」と胸を張れるものであり、後世にも語り継いでいきたい建物になったと思います。

現場を見て学ぶ

県立球磨工業高校建築科の生徒約40名が建設中の現場を訪れ、設計者や施工者の説明に熱心に耳を傾けた。

Check!
プロジェクトの詳細は
こちらをチェック→→

#1_2022.11.3 thu / #2_2023.3.5 sun

こども建築塾 2022
石をあつめてミュージアムをつくろう

第1回「石をあつめる」
開催場所：益城町潮井公園
講師：大西麻貴+百田有希／o+h

第2回「タイルをつくる」
開催場所：熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設建設現場
講師：大西麻貴+百田有希／o+h

こども建築塾では、ミュージアムの建物のサインをつくるため、その材料となる石を集め、実際にタイルをつくるワークショップを2回にわけて開催。1回目は、震災の被害が大きかった断層を有する益城町潮井公園の石拾い。集めた石は、建築物の看板の一部に活用される予定だ。5班にわかれ、潮井公園内を歩きながら、地震の被害状況やその土地の説明を聞きながら、色や形、それぞれに個性的な石を集めた。2回目は、阿蘇の野焼きが行われている3月に開催。ミュージアムの建設現場でタイルづくりのワークショップが開かれた。1回目で集めた石を、セメントに埋め込み、ヤスリで削り出すまでを体験した後、設計者の案内で建設現場を見学した。

参加者 Comment

川がとってもきれいで、夢中になって石拾いをしました。いろんな色がまじった石や、大きな石を拾って、とても楽しかったです。（左から ほのかちゃん、さほちゃん、ゆいかちゃん）

白い石、赤い石、青い石、今まで見たことのない色の石を見つけました。2色にわかれている石もありました。一緒の班の人たちと石並べをして猫をつくったり、地域の歴史を教えてもらったり、楽しい時間でした。（左から　ひろとくん、あきとくん、かんたくん、おうすけくん、はるきくん）

On going

エバーフィールド木材加工場

架構自体が美しい、新しい木造空間

アートポリスプロジェクトであるエバーフィールド木材加工場は、設計者の「小川次郎+小林靖+池田聖太」、事業主体・施工者の「株式会社エバーフィールド」により、これまでに見たこともないような新しい木造空間の提案を実現するため、上益城郡甲佐町で工事が進められている。

県産流通木材(小中断面製材)を活用し、集成材を使用していない「レシプロカル構造(相持ち構造)」により、20m×30mの大空間を実現する。

事業概要

事業主体／株式会社エバーフィールド
設計者／小川次郎+小林靖+池田聖太
延べ面積／約600㎡
構造・階数／木造・平屋

Check!
プロジェクトの詳細は
こちらをチェック→→

2022. 10. 29 sat　2023. 2. 28 tue

建築塾 2022

施工現場見学会

開催場所　エバーフィールドベース
上益城郡甲佐町

講　師
小川　次郎（意匠／アトリエ・シムサ）
山田　憲明（構造／山田憲明構造設計事務所）

呼吸する建築・レシプロカル構造を140名が見学！

エバーフィールド木材加工場の施工現場見学会が10月、2月の2回行われた。設計者のレクチャーを受け、現場を実際に見ることができるとあって、県内外から建築・林業関係者など約140名が集まった。小川次郎氏の「今までにない美しい建築をつくる、木材が生きているように呼吸する建築として、生きる意志を持って変形している」との熱い思いや、構造設計の山田憲明氏の「経験と知識を出し尽くしても足りないほど難しい構造設計だった」という体験談に、熱心に聴き入る参加者の姿が見られた。施工現場では高さ約10mの仮設足場に上り、間近では今しか見ることができない架構を見ながら、施工している大工さんの解説も受け、貴重な機会となった。

左から山田氏、小川氏

参加者 Comment

熊本大学工学部建築学科3年
永田優正さん

アートポリスの施設はいくつも見ていますが、施工現場は初めて。県産木材を使ってあり、モク活の観点からも大きな意味のある建築物だと感じました。

肥後木材株式会社
窪田崇宏さん

一般に流通している県産材を利活用する設計手法で建築された良い事例と思います。
林業関係者としても、このような事例が増えることを期待しています。

On going

令和2年7月豪雨　被災した公民館を再建する「みんなの家」

日本財団と熊本県建築住宅センターの支援を受け、くまもとアートポリスプロジェクトとして、
被災した公民館を「みんなの家」として再建する。
設計が完了した地区では、起工式が行われた。完成を地域の皆さんが待ち望まれている。

事業主体／一般財団法人熊本県建築住宅センター
協働事業者・資金助成／日本財団
事業協力／一般社団法人KKN熊本工務店ネットワーク

Check!
プロジェクトの詳細は
こちらをチェック→→

人吉市のみんなの家

設　計　者／ 乾久美子（乾久美子建築設計事務所）
4棟（温泉町、大工町・二日町、宝来町、下新町・上新町）

人吉市のみんなの家は、どっしりとした寄棟の屋根と浸水を防ぐ腰壁が特徴。コミュニティ再生の場となるよう、地区住民・設計者・施工者が共に考えながら設計を進め、4棟の工事が始まった。温泉町の起工式では、町内会長から「先の見えない復興を手探りでここまで続けてきた。今日が復興への出発点。みんなの家の完成を見ながら復興への道を探りたい。」と挨拶された。令和5年3月末には、第1号となるみんなの家が完成し、6月には残りの3棟も完成予定。

温泉町のみんなの家 起工式

八代市のみんなの家

設　計　者／ 柳澤潤（コンテンポラリーズ）
2棟（藤本・大門、中津道）

八代市のみんなの家は、大地に根差して立っているお堂のような公民館。住民との意見交換会では、設計者から「みんなを包むおおらかな空間」を提案。はね出した深い軒や天窓により、柔らかな光で包まれる内部空間が期待される。中津道の起工式では、町内会長が「7月豪雨で土砂に埋まった公民館を見て、集いの場はどうなるのかと思った。関係者の皆さまの協力に感謝し、憩いの場として活用したい。」と挨拶された。中津道は6月、藤本・大門は8月に完成予定。

中津道のみんなの家 起工式

球磨村のみんなの家

設　計　者／ 渡瀬正記＋永吉歩（設計室）
3棟（渡、神瀬、中園）

熊本地震でみんなの家の設計をした渡瀬正記＋永吉歩が設計者として選定された。「地域のコミュニティを育む場として、敷地に合う建物、将来の球磨村の風景に合うようなもの」を目指したいと渡瀬氏から話があった。住民との意見交換会では「車が乗り入れでき、炊き出しにも使いやすい広い軒下空間がありがたい」「多くの住民が集える広い空間をつくってほしい」などの意見を踏まえて設計が進められている。渡は2023年度に、神瀬、中園は2024年度に完成を目指す。

神瀬のみんなの家　意見交換会

渡のみんなの家　意見交換会

第26回 くまもとアートポリス推進賞受賞作品決定！

くまもとアートポリス事業の一環として、建築文化に関する関心を高めるために行っている本賞。1995年から始まり、これまでに175件の作品を表彰してきた。2022年度の推進賞には、38件の応募作品があり、平成28年熊本地震の被災が契機になった施設や、リノベーションして利活用した施設など多様な作品が10件選ばれ、2023年1月31日に表彰式が開催された。

Check!
第26回推進賞の詳細は
こちらをチェック→→

推 進 賞

村川造園自宅

N-HOUSE

©小川 重雄
神水公衆浴場

©Yousuke Harigane
床と大地の余地

ケアポート益城

上乃裏通りのビルディング+

©千葉 顕弥
線景の家

©2021 Aioi Pro Photo
南関町庁舎

推 進 賞 選 賞

©田中 克昌
岱明の家

©㈲マツセ写真館
かえでの森こども園

KASEIプロジェクト 九州建築学生仮設住宅環境改善プロジェクト

令和2年7月豪雨 公民館型「みんなの家」住民との意見交換に参加

九州山口の建築系大学の学生や教員が参加し、仮設住宅等の住環境改善に取り組むKASEIプロジェクト。11月に人吉市の仮設団地を訪問し、住民と「いこいの広場」イベント、お話し会を開催。住民と楽しい時間を過ごした。令和2年7月豪雨 公民館型「みんなの家」住民との意見交換会では、住民に寄り添い、住民の貴重な意見を聞きとり設計者へ向け発表した。今後は、「みんなの家」にベンチを制作予定。

Check!
KASEIプロジェクトの詳細は
こちらをチェック→→→→→

熊本地震仮設住宅団地の「みんなの家」をあらたなコミュニティ形成の場に

熊本地震「みんなの家」利活用プロジェクト

平成28年熊本地震における「みんなの家」プロジェクトでは、
応急仮設住宅団地に84棟が整備された。
住まいの再建が進み、応急仮設住宅団地の閉鎖と共に「みんなの家」も役割を終える。
この「みんなの家」を新しいコミュニティ形成の場や地域づくり拠点に生かすため、
移築などによる利活用プロジェクトを進めている。

Check!
プロジェクトの詳細は
こちらをチェック→→

西原村布田地区自主防災組織強化コミュニティ施設

南阿蘇村下野山田仮設団地から移築。

益城町川内田公民館

益城町惣領仮設団地から移築。

KAP TOPIC

2022. 11. 26 sat

「みんなの家」が第4回復興設計賞を受賞！

復興デザイン会議

復興デザイン会議が主催する「第4回復興設計賞」を『くまもとアートポリスによる「みんなの家」の取組み』が受賞した。表彰式は、復興デザイン会議第4回全国大会（東京都）で行われた。

審査委員会の講評では、「30年以上の優れた歴史を有するくまもとアートポリスは、国内外の専門家から高く評価されてきたが、熊本地震以降、その活動が復興設計の新たな枠組みを提示していることは特筆に値し、また、みんなの家の利活用を図る取組みは、今までにない持続可能なまちづくりの新たな建築設計概念を提示している」と評価された。

2022. 9. 30 fri

建築士事務所協会全国大会

アートポリスパネル展示を開催

「大自然の脅威に耐えて今そして未来へ」を大会テーマに第44回建築士事務所協会全国大会（熊本大会）が熊本城ホールにて開催され、全国の会員1,100人が参加した。

伊東豊雄コミッショナーの「これからの社会と建築を考える」と題した基調講演が行われた。アートポリスパネル展示にも多くの方が来場し、全国へ熊本県の取組みを紹介することができた。

アートポリスの見学が復調

新型コロナウイルス感染症の影響で減少していた
アートポリスの見学が増加し、令和4年度は国内外から
大学生等約440人の見学申込があった。

県営保田窪第一団地（熊本市）
設計者：山本理顕

熊本県総合防災航空センター（菊陽町）
設計者：小川次郎/アトリエ・シムサ+ライト設計

くまもと
アートポリス
KUMAMOTO
ARTPOLIS

インスタグラムフォトコンテスト2022 優秀作品

詳細はこちら

地域に息づく魅力ある建築物に触れることで、建築文化や都市デザインに興味関心を持ってもらうことを目的として「あなたが選ぶ熊本の建築・あなたが好きな熊本の建築」をテーマにインスタグラムフォトコンテストを開催しました。今年度で3回目の開催で、555点の投稿の中から厳選の優秀作品12点をご紹介します。(順不同)

【一般の部】
熊本北警察署坪井交番
@kinasyo042905

【一般の部】
三角港フェリーターミナル
(海のピラミッド)
@naruse.kei8

【一般の部】
牛深ハイヤ大橋
@take_all_a

【一般の部】
馬見原橋
@konnnnyaku1017

【一般の部】
球泉洞森林館
@nobuyukiharada

【一般の部】
お祭りでんでん館
@kobayashidenko

【一般の部】
県立美術館分館
@take_all_a

【一般の部】
熊本駅
@fumi145147giulietta

【一般の部】
﨑津教会
@theroad_theywalked

【一般の部】
新八代駅モニュメント
「きらり」
@cynthiacynthiajj

【学生の部】
日奈久温泉神社
@kyo._.10

【学生の部】
通潤橋
@__.1_3.__

発 行 くまもとアートポリス事務局
熊本県土木部建築住宅局建築課内

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1
TEL.096-333-2537 FAX.096-384-9820
e-mail kenchiku@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ facebook twitter instagram Pinterest YouTube

発 行 者:熊本県
所 属:建築課
発行年度:令和4年度
(2022年度)